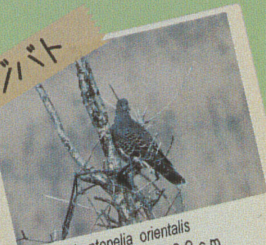


カピックセンター周辺の野鳥山・里編

キンバト



学名: *Streptopelia orientalis*
 ハト目ハト科 全長 33cm
 見られる時期: いつでも
 「デューポオポオ」と鳴く。つがいはなると、2羽で仲良く並んで行動する。灰色で街中でよく見られる「ドバト」と違い、群れない。茶色い羽が特徴。

千ヨウゲンボウ



学名: *Falco tinnunculus*
 タカ目ハヤブサ科 全長 35cm
 見られる時期: 冬
 本州の北部から中部にかけて、子育てを行い、冬になると産卵場にも飛んでくる。長い尾羽が特徴。空中で飛びながら止まることができる。ホスミなどを食べる。

カピックセンターの周辺は、大隅湖（農業用のダム）と、それを取り囲む高隈山系の深い森があるために、とてもたくさんの野鳥を見ることができます。その数、80種類以上！！

宿泊棟の窓から外をながめてみたり、周辺をのんびりお散歩したりする際に、ぜひ、周りの野鳥たちも見てみてください。

日本の中でも珍しい絶滅危惧の野鳥を見ることができるかもしれません。

ゴケラ



学名: *Dendrocopos kizuki*
 キツツキ目キツツキ科 全長 15cm
 見られる時期: いつでも
 小型のキツツキ。「ギィ」と鳴きながら飛ぶ。カピックセンターの桜の木や、大隅湖の桜の木によく止まっている。枯れた木をつついて、中にある虫を食べる。

シジュウカラ



学名: *Parus major*
 スズメ目シジュウカラ科 全長 15cm
 見られる時期: いつでも
 黒いネクタイのように見える。胸から腹の黒いすじが特徴。木のあるところなら、住宅街にもいる。小さくてかわいく見えるが、肉食。ちなみにゴジュウカラという野鳥もいる。

オオドリ



学名: *Cyanoptila cyanomelana*
 スズメ目ヒタキ科 全長 16cm
 見られる時期: 夏
 ベトナム、ラオスなどの東南アジアで冬を越す。夏に日本に子育てのためにやってくる。オオスの背中が、ルリ色に光って見えるため、出会うと感動する。

エナガ



学名: *Aegithalos caudatus*
 スズメ目エナガ科 全長 14cm
 見られる時期: いつでも
 体が小さく、しっぽが長いことが特徴。しっぽの長さが、体の長さの半分ほど。10羽前後の群れをつくり、林の中を移動する。重さは1円玉5枚分。

ホオジロ



学名: *Emberiza cioides*
 スズメ目ホオジロ科 全長 17cm
 見られる時期: いつでも
 ほおが白いで、「ホオジロ」と名付けられた。子育てシーズンの鳴き声は「いっぴつけいじょうつかまつりそうろう（一筆啓上仕り候）」と聞こえる。

ヤマガラ



学名: *Parus varius*
 スズメ目シジュウカラ科 全長 14cm
 見られる時期: 秋～春
 森の中で子育てをするため、夏場はあまり見られない。食べ物が少なくなる冬にそなえて、地面のくぼみなどに、木の葉などを取っておく習性がある。

モズ



学名: *Lanius bucephalus*
 スズメ目モズ科 全長 20cm
 見られる時期: 秋の終わり～春の始まり
 あたたくかると、子育てのために森の中に入るため、見られなくなる。虫や小動物をそった枝などに、刺し、「はやにえ」と呼ばれる保存食をつくる。

ゴジュウケイ



学名: *Bambusicola thoracica*
 キジ目キジ科 全長 27cm
 見られる時期: いつでも
 もともとは、中国東南部に多い鳥だが、日本に持ち込まれ、本州の雪の少ない地方や九州などで急激に増えた。草やぶに身をかくして歩く。

ハシボソガラス



学名: *Corvus corone*
 スズメ目カラス科 全長 50cm
 見られる時期: いつでも
 カラスにも種類があり、くちばしが太い「ハシボソガラス」とくちばしが細い「ハシボソガラス」が、いつでもみられる。ハシボソガラスはガーガーとなく。

カピックセンター